

3. 全日制高校・外国人生徒の「措置」について

措置のある30自治体（○印の自治体のみ）について、その内容を比較しました。なお、自治体によって要項などで使用する用語は異なりますが、比較するため共通した用語に一部変えて示しています。

その結果、「**滞日年数制限**」「**措置の内容**」が自治体によって大きく異なることがわかりました。

自治体名	滞日年数制限	措置の内容
宮城県	なし	時間延長、科目減など（ただし審査の上）
仙台市	なし	保護者等からの申請による受験上の配慮（審議により配慮内容を決定）
茨城県	3年	科目減（国数英+面接）
栃木県	2年 （外国での在住年数2年以上、在住期間が長期者は個別）	・面接+（高校長判断で学校独自検査と作文） ・国、数、英の学力検査+作文、面接
群馬県	3年	後期選抜における科目減（国・数・英）
東京都	①国籍を問わず、入国後6年 ②外国籍で、入国後3年	①は、第一次・分割前期及び分割後期・第二次での共通問題の漢字にルビ ②は、上記に加えて、辞書持ち込み、時間延長を一部認める。さらに在京入試問題の漢字にルビ
神奈川県	6年	時間延長（1.5倍まで）、問題文の漢字にルビ、面接時にわかりやすい言葉でゆっくり話す
川崎市	6年	時間延長（1.5倍まで）、問題文の漢字にルビ、面接時にわかりやすい言葉でゆっくり話す
横浜市	6年	時間延長（1.5倍まで）、問題文の漢字にルビ、面接時にわかりやすい言葉でゆっくり話す
富山県	6年 （日本国籍者は入国後3年）	漢字にルビ（日本国籍の場合、海外帰国生徒（帰国子女）に対する特別措置を適用し、面接を実施。）
福井県	2年 （外国での在住年数2年以上）	国・英・数の3教科+面接
山梨県	7年	学力検査は5教科の中から自己選択した3教科+面接
長野県	3年	時間延長、漢字にルビ、国・社を作文・面接で代替
滋賀県	6年	漢字にルビ、時間延長10分、辞書持ち込み可（ただし、英語辞書は不可）
京都府	3年 （外国での在住期間が継続して1年以上）	時間延長（上限10分）、漢字にルビ
京都市	3年 （外国での在住期間が継続して1年以上）	時間延長、漢字にルビ等
大阪府	原則として小一以上の学年に編入学したもの	時間延長、辞書持込、漢字にルビ、キーワードの外国語併記
大阪市	原則として小一以上の学年に編入学したもの	時間延長、辞書持ち込み、漢字にルビ、作文および小論文形式のキーワード外国語併記、小論文における翻訳、自己申告書の代筆
兵庫県	特になし	時間延長、漢字にルビ、問題用紙拡大コピー、別室受験など
神戸市	兵庫県に準ずる	兵庫県に準ずる
和歌山県	特になし	漢字にルビ、時間延長、辞書の持ち込み等
鳥取県	3年 （個々の事情等により配慮）	個々の事情により配慮する （例：試験科目の限定（5教科を国・数・英の3教科）、試験時間の延長、ルビふり、辞書の持ち込み許可など）
徳島県	なし	時間延長、漢字にルビ、辞書の持込など具体的な措置は受験者の状況を聞き、各校と教育委員会が協議をして決定
福岡県	6年 （小四以上の学年に編入学、学齢超過者に対しては別条件有）	・時間延長（国25分、他15分） ・学力検査問題の一部について、別に漢字振り仮名表を用意
福岡市	6年 （小四以上の学年に編入学、学齢超過者に対しては別条件有）	時間延長、漢字にルビ、別会場
佐賀県	【条件A】6年 （小四以上の学年に編入学、学齢超過者に対しては別条件有） 【条件B】2年 （海外に引き続き2年6月以上在留者）	【特色選抜試験】時間延長、漢字にルビ 【一般選抜試験】3教科受検、時間延長、漢字にルビ ※審査の上で決定
長崎県	なし	漢字にルビ
熊本県	なし	時間延長など
大分県	協議による	協議による
鹿児島県	3年 （中学校又はこれに準ずる学校に編入学した者）	時間延長、漢字にルビ